

令和2年度 東国文化自由研究レポート



研究テーマ

～ 埴輪の形や模様には
どんな意味が込められているのか～

提出日 令和2年8月24日



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 1組 26番

氏名 深須 そら

東国文化の中で、埴輪は、その地の特徴を示すものとして、貴重な存在となっています。
しかし、一言に「埴輪」と言っても、その形は様々で、全てに全く同じ意味が込められているとは思えません。そこで、私は埴輪の形に込められた思いや願いを詳しく調べることにしました。

今回、私は主に「保渡田古墳群」について調べました。
そこで、初めに保渡田古墳群について紹介したいと思います。

保渡田古墳群は、5世紀の終わりから6世紀の初めに造られた古墳群で、3つの古墳があります。
古墳は薬師塚古墳、八幡塚古墳、二子山古墳があります。昭和60年9月3日には、国指定史跡となりました。

○八幡塚古墳



八幡塚古墳は、保渡田古墳群の中でも一番大きい古墳です。3基の中で2番目に造られました。

- ・再現された埴輪がずらっと並んでいて、埴輪の様子が分かりやすいです。
- ・頂部から階段を降りると、王の眠る棺である舟形石棺を見ることが出来ます。説明も多く書かれていて、石棺について詳しく知れます。
- ・4つの中島があり、ここは古墳に埋葬された人に対するマツリ(葬儀儀礼)が行われたと考えられています。それぞれ埋葬されていたものが異なることから、別々にマツリが行われたようです。

○二子山古墳



- ・3基の中で最初に造られた古墳です。
- ・後円部頂上の1m地中には石棺が保存されていて、頂上には実物大の石棺写真があり、石棺の大きさを知ることが出来ます。

○薬師塚古墳

- ・3基の中で最後に造られた古墳です。
 - ・大きな石棺が特徴です。
- (右の写真は石棺の入り口です。)



1. 埴輪に込められた意味

まず、埴輪とは大まかにどんな役割を果たしているのでしょうか。そして、いつどのようにして埴輪が作られるようになったのでしょうか。大まかに言うと、埴輪は古墳を聖域として区画する役割を持ち、また、3世紀後半(弥生時代の末)、墳墓に使われた壺形土器とそれをのせる器台形土器が原点とされています。

●保渡田古墳群

見学…2020年8月2日

- 八幡塚古墳
- かみつけの里博物館 常設展示 企画展示「わくわく博物館'20」



八幡塚古墳 再現された埴輪の並び



円筒埴輪

写真から、このような事を読み取ることが出来ます。

- 古墳全体を筒形の埴輪で囲んである
- 動物や人間の埴輪が多い

まず筒形埴輪についてですが、筒形埴輪には二種類あり、円筒埴輪と朝顔形埴輪に分けられています。込められた意味としては「聖域である古墳に邪悪なものを侵入させない(結界)」の役割を果たしていると考えられます。数が非常に多く、八幡塚古墳の円筒埴輪だけでも6000本に及びます。

更に、動物形の埴輪の中でも意味は異なっていました。

●馬型埴輪

動物形の中で最も多かったのは馬型埴輪で、「有力者の権力を象徴する」意味を持っています。馬耳を装着したものが大部分を占めていて、群馬県は、馬型埴輪の出土が全国でも最も多く、そこから「群『馬』」になったとも考えられています。



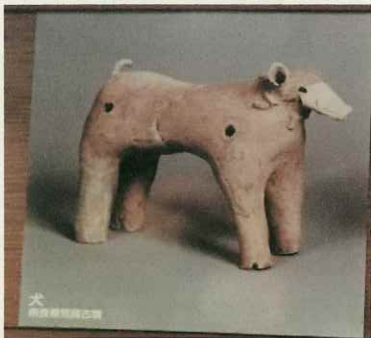
馬具を着けた飾り馬



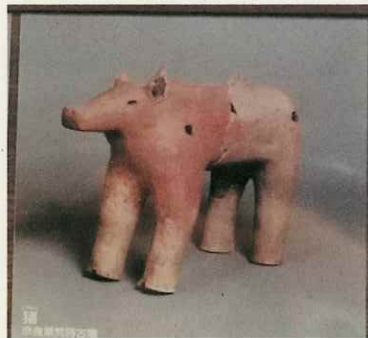
裸馬

●犬・猪

犬や猪は「狩りの様子」、狩猟儀礼の場面を表しています。犬と猪はセットなことが多いです。



犬



猪

●鶏・水鳥・鹿

鶏や水鳥、鹿は、それぞれ「暗い闇から夜明けを告げる」、「魂を運ぶ清浄な鳥」、「神の使い」という意味を持っていて、まとめると「神聖」という意味を表します。また、儀式で重要な役割を果たしていたとも考えられています。



鶏



水鳥



鹿

次に、武士を表す埴輪についてです。

●盾持ち人

盾持ち人の埴輪は、その名の通り盾を持った兵士を表す埴輪です。器材埴輪の盾に頭を足したもので、5世紀後半に作られ始めたと考えられています。異様な頭つきのものも多く、「魔除け」と考えられます。



盾持ち人

●短甲や挂甲を身に着けた人

短甲は鉄板を組み合わせた鎧、挂甲は鉄の小札を綴り合わせた鎧です。挂甲は動きやすく乗馬に向いていました。5世紀と6世紀を境として短甲は減少し、挂甲へと変わって行きました。



短甲を身に着けた埴輪



挂甲を身に着けた埴輪

●武器・武具

武器や武具の埴輪も多くみられます。例としては、甲冑・盾・矢やそれらを入れて背負う道具である鞆(ゆき)、太刀などが挙げられ、死人を守護するのが目的です。



太刀



6世紀の鞆



4, 5世紀の鞆



6世紀の盾



甲冑

その他としても、このような埴輪が挙げられます。

●楽人埴輪

楽人埴輪とは、楽器を奏でる人を表す埴輪です。琴は貴人が神のお告げを聞くときに使われる道具であったと考えられていて、琴を弾く楽人埴輪が最も多いです。他には、太鼓・鼓・笛などを弾く(吹く)埴輪があります。楽器は当時、「厳かにする・邪霊を払う」など呪的な意味が強くありました。



琴を弾く埴輪



太鼓をたたく埴輪

●家形埴輪

4・5世紀は写実的に、6世紀には抽象的に作られていて、時代性が見受けられます。



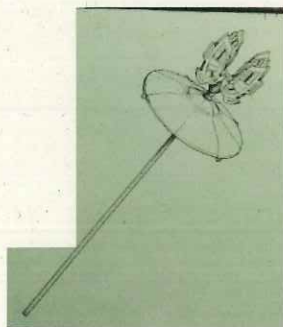
6世紀の家形埴輪



5世紀の家形埴輪

●蓋(きぬがさ)

キヌガサとは、貴人に差し掛ける日笠のことで、儀式に用いられる他、「貴人のいる場所を示すシンボル」でもあります。



蓋の模写図

●西と東の女性埴輪の服飾

西の方では、長い布をたっぷり巻き付けた「掛布」を身にまとい立ち姿のものが多いのに対し、東の方では「襷」を掛けるものも多く、立ち姿、座像など多様です。そこから、地域性が表れています。



畿内(京都府)の巫女



北陸(石川県)の巫女

○ここまでのまとめ

今回紹介した埴輪はほんの一部であり、埴輪は数え切れないほど多くの種類が存在します。そして一種類一種類に大切な意味が込められている事が分かりました。しかし、この埴輪たちには作った人の共通した思いも見受けられます。それは、亡き豪族に対しての尊敬の気持ちや、しっかり御守りして安心して天国に行ってもらいたいという気持ち、亡き豪族が残した権力を力いっぱい表そうとしていたということだと私は感じました。

一見全く意味が違うように思えても、少し視点を変えれば、昔の人の願いから見つめることが出来ました。

2. 埴輪の配置場所に込められた意味

保原田八幡塚古墳における埴輪の配置

儀式が行われたと推測される中島

南東方向から見た墳丘

墳丘を囲む円筒埴輪と朝顔形埴輪

盾を持った人の埴輪

古墳の概要

- 築造 5世紀後半
- 全長 約190m
- 墳丘長 約96m
- 円筒埴輪 約6千本 (推定)
- 葺石 約39万8千個 (推定)

外埴 石棺

人物・動物埴輪が出土した区画

墳丘

内埴 内埴 外埴

保原田八幡塚古墳図面より作成

54体の人物・動物埴輪 (主な場面)

座って行う儀式

右手を差し出している人物が王。正面に座る巫女が埴を手向けている

イノシシ狩り

狩人が弓矢でイノシシを狙っている

財物の告示

人や馬などが一列に並ぶ

- ・円筒埴輪は前途にある通り古墳を聖域として区画するため、一番外側に配置されています。
- ・「儀式」「狩り」など、の場面ごとに分けられています。儀式の場面には、神聖な動物である鹿、鶏、水鳥や、厳かにする意味を持っていた楽人埴輪などが配置されていました。
- ・武器を持った埴輪は比較的外側に配置されている事が多いです。古墳に眠る豪族を、邪悪なものから守るためです。

千葉県芝山町にある古墳のホームページなどからは、埴輪はほとんどが外側を向いている事が分かっていて、1. で私が考察した事とは逆に、亡くなった方のためよりも、古墳前で儀式に参加する人や見ている人のために並べられているのではないかという考えも出ています。

3. 埋葬されていたのは誰なのか

埴輪に込められた意味から、そして何より古墳の大きさから、ここに葬られたのはかなり大きな権力を持っていた豪族だったことが読み取れます。

今までのことをまとめて条件とすると、

- ・大きな権力を持っている
- ・(古墳の造り方から)大和政権に直接支配されていた
- ・5世紀後半頃に生きていた

に全て当てはまる豪族だということが考えられます。

では、この古墳の近くにはどんな豪族がいたのでしょうか。

保渡田古墳群から約1 kmのところ、日本で最初に発見された豪族の館、三ツ寺遺跡があります。そこは「車持氏」のものということから、保渡田古墳群に埋葬されているのも車持氏ではないかと考えられています。

「車持氏」は、日本の10代目天皇の「崇神天皇」を祖とする「上毛野氏」に関連した豪族で、かなりの権力を持っていたと思われます。

その周りには、車持氏が招聘した渡来人が埋められているという説が有力です。

しかし、古墳が3基あるのに対して被葬者が1人になってしまうため、まだ全貌は明らかになっていないことが分かります。ほかには、誰がかつてのこの地を支配していたのでしょうか。

全貌が分かる日が楽しみです。

○まとめ・感想

今回、私は「埴輪の形や模様にはどんな意味が込められているのか」について調べました。

八幡塚古墳は、整備されていながらも当時の様子が見つわり、行った甲斐がありました。埴輪も再現されていて、私は特に鹿の埴輪が気に入りました。

「ここまでのまとめ」にも書いてありますが、埴輪には一つ一つに大切な願いが込められていて、昔の人の思いを垣間見たような気がしました。

以前私は、「群馬県太田市・史跡探検スタンプラリー」に参加した事があり、沢山の古墳に行きました。しかし、当時はあまり興味がなく、覚えているのはたったの数か所です。それに、埴輪は「ただただ不気味な置物」という認識しかありませんでした。でも、このレポート作りをするうちに、古墳にとっても興味が沸きました。機会があれば、また沢山の古墳をみてみようと思います。

今回は日本の昔のお墓を詳しく調べました。しかし、かつて日本は中国から文化を取り入れていました。では、中国の昔のお墓も古墳なのでしょうか。それとも、古墳は日本オリジナルで、中国はまた独自のお墓があったのでしょうか。

また、豪族のお墓といえば、エジプトにあるピラミッドが有名です。ピラミッドの周りには、埴輪のような役割を果たすものは存在したのでしょうか。



このように、古墳や埴輪を調べるうちに、沢山の「知りたい」が生まれました。時間がある時に、調べてまとめたいと思います。

●かみつけの里博物館 ホームページ

<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014010701664/>

●芝山古墳・埴輪博物館 ホームページ

<https://www.haniwakan.com/tenji/1-7haniwaretu.html>